

## 平成25年度 第1回公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成26年1月10日（金） 午後3時から午後4時30分まで

【場 所】 公立能登総合病院 第1会議室

【出席者】 24名（委員12名、当院10名、事務局2名）

（委員） 松木会長、山崎委員、鳥居委員、井田委員、和田委員、川下委員  
澤井委員、水野委員、谷内田副会長、清水委員、中尾委員、河合委員

（当院） 川口事業管理者、吉村病院長、池野看護部長、出村経営本部長  
坂本地域医療支援副センター長、寺尾経営企画課長、谷診療支援課長  
藪谷管理課参事、今井作業療法士、山崎作業療法士

（事務局）水口補佐、吉田主事

### 【内容】

#### 1 開会のあいさつ

＜川口病院事業管理者＞

本日は、お忙しいなかお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

当協議会は、能登総合病院を運営するにあたり、住民の皆さまのご意見をいただく場という趣旨で開催しております。

本日の協議会では、今年度の運営状況を報告するなかで、住民の代表である委員の皆さまからのご意見を受け賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 2 委員及び病院職員の紹介

＜出村経営本部長＞

#### 3 会長、副会長の選出

病院協議会第4条の規定により、松木委員を会長に、谷内田委員を副会長に選任

＜松木会長＞

能登病院には、地域のため、幅広く意見を聞き、住民の福祉のために頑張っていたきたい。皆さまから、忌憚のないご意見を出していただき、よりよい能登病院にしていきたいと思っております。ご協力の程よろしく申し上げます。

#### 4 議件

##### （1）公立能登総合病院の経営状況等について

＜川口病院事業管理者＞

- ・ 平成25年度前半は、病床利用率の低下で診療収益減が減ったため、経営的には難しい状況になっています。後半どのように展開していくかが問題だと思っています。
- ・ 本来、当院は七尾市と中能登町の住民の意思で作られてきたものですが、基本理念に能登全域という言葉が入っています。当院は、能登全域の患者さまのための価値を創造していきます。そのためには、利益を生む病院経営が必要と考えています。
- ・ 平成25年12月までの主な事業は、吉村新院長を迎えての診療内容の充実、病院機能評価の受審、精神センターの増築などがあります。予算上は約4,000万円程度の黒字を目標として事業を開始しました。
- ・ 企業経営の本道は、売り上げを上げることであります。そのためには、診療単価をアップすることが大切です。診療単価をアップしていったことで、平成17年度の赤字からなんとか黒字化することができました。
- ・ 平成25年12月までの診療収入は良くありませんでした。平成24年度

と比較すると、6月と10月以外は低調でした。原因は、季節的なファクターが関連したのではないかと考えられます。

- ・ 入院は、在院日数を短縮し、DPCにかなった診療をすること、手術件数を増加することで、診療単価アップをしていきたいと考えております。外来は、見落としの少ない診療を行い検査件数を増加することで、診療単価をアップできるよう取り組んでいきたいと考えております。
- ・ 今、医療界では地域医療連携が叫ばれています。外来の患者数が多いと、医師・看護師がその対応に疲れ果て、疲れた身で午後から手術をしなければならない状態でした。そこで、開業医に診ていただければよい外来患者さまは、なるべく移っていただいて、余裕を持った診療を展開するとともに、見落としの少ない・質の高い医療を展開できるよう外来のスリム化に取り組みました。
- ・ 外来が忙し過ぎると、医師・看護師・受付スタッフの余裕が欠如し、見落としやクレームが多発する状況になってしまうと考えられます。
- ・ 病院は急性期入院医療に力を注ぐべきと言われており、病状が安定した患者さまは、開業医に診療を受け持ってもらい、当院の医師とかかりつけ医の二人で診療を行うことで、安心して充実した医療を受けられるよう、地域医療連携の推進に取り組んでいます。
- ・ 能登地域の中核病院としての立場を確立するため、地域医療支援病院の取得を目指し、さらに地域医療連携に努めていきます。
- ・ 12月議会の補正予算から見た今年度の予測事業収支は、3,000万円程度のプラスになるだろうと考えられます。ただ、保有現金は31億円ありますので、今あるものを有効に使いながら経営していきたいと考えております。
- ・ 消費税の増税分は、診療報酬に上積みされるといわれていますが、平成26年度は、実質マイナス改定で、病院経営にとって厳しい状況が予想されます。そのため、現金預金を増やしていくことは不可欠であると思われまます。
- ・ 「地域住民に信頼される医療の展開」、「職員が働き甲斐を実感できる病院作り」、「更なる進化ができる病院への取り組み」、「全員経営・全員医療・心の医療へ」、この4つが当院に課せられた使命と考えております。
- ・ 平成17年度は14億円の赤字、平成19年度は現金預金が13億円まで減少しました。しかし、職員全員でこの危機を乗り越えてきました。「やればできる。自信を持っていきましょう」と全職員に話をしています。
- ・ 平成17年度に経営企画室を設置し、平成19年度から地方公営企業法の「全部適用」となり、事業管理者を置いて企業性を発揮する方向になりました。

#### <中尾委員>

病床利用率の低下は季節性の変動が理由と言っていたが、診療科による違いは何かありますか。

#### <川口病院事業管理者>

→ 内科の病床利用率が少し減りました。内科が全体の病床利用率の大半を占めるので、そのことで少し落ちたかなと思います。ただ、全体的に低調となりました。

#### <水野委員>

入院日数が短くなったと言っていたが、病床利用率が80%に落ちたら、入院日数を延ばせばどうですか？

#### <川口病院事業管理者>

→ 医療というものは、患者さまに適切な期間で退院していただくという形になっています。しかも、診療費の請求方法は、1つの病名が決まると在院日数にかかわらず同じような値段になります。在院日数を短くし、効率よく退院していただくようにしています。入院から手術、退院までの流れが決まった状況の中で診療を行っていて、長くしたり短くしたり、なかなかさじ加減ができないのが現状です。

#### <澤井委員>

病院を決める時、特に若い人は、インターネットで調べる傾向があると思います。

情報を公開して、若い人を取込むようにした方がいいと思います。

<川口病院事業管理者>

→ 当院もホームページを持っており、情報を公開しています。今後も、充実したホームページを作成していこうと思います。

<鳥居委員>

七尾・中能登地域の中で開業医とうまく連携できているのか聞きたいです。

<川口病院事業管理者>

→ 今、地域医療連携室が、いろいろな病院で大事な機能と言われています。当院では地域医療支援センターに専門のスタッフがおり、開業医との連携に積極的に取り組んでいます。開業医との連携が不十分で不安だなと思われなくてもいいかと思います。

<和田委員>

病院機能評価というのは、どこが行っていて、何のメリットがあるのですか。

<川口病院事業管理者>

→ 日本病院機能評価機構というのがあり、そこのスタッフの方、医師、看護師が当院に来られて、各部門ごとの質問、各病棟でのケースカンファレンス、実際に現場を見て指摘するというものです。当院は2点ほど指摘事項があり、その改善についての書類を現在、送っているところです。それが認められれば、日本病院機能評価機構の認定病院となります。認定された病院だと、住民の方々が安心して受診できるというメリットがあります。

<松木会長>

それは毎年、受けるんですか？

<川口病院事業管理者>

→ 5年ごとです。

<井田委員>

外来患者が多いことがなぜデメリットなのか、どのように外来のスリム化を行ったのか、他の方法を考えて受入れることはできなかったのかを教えてください。

<川口病院事業管理者>

→ 外来患者さまが1,200人もいた時は、本当に大変でした。当時、地域医療連携が叫ばれており、当院も外来のスリム化に取り組むことにしました。例えば、血圧が高く、血圧を計り降圧剤を出すような患者さまは、わざわざ混んでいる能登病院に来なくても、かかりつけ医に診てもらい、3か月あるいは半年に1度、精密検査のために当院に来院していただくといった形にしていきました。現在は、800人台です。今後も、さらに地域医療連携を進めていきたいと考えています。

## (2) 公立能登総合病院改革プランの進捗状況について

<寺尾経営企画課長>

- ・ 当協議会の趣旨の中に「経営改革のシナリオ」の点検があります。
- ・ 当院は独立採算であります。政策医療・不採算医療については当院の果たすべき役割として、一般会計からの負担で行っています。
- ・ 平成12年に現在の病院が完成し、その後の減価償却費や企業債償還金の増加、度重なる診療報酬のマイナス改定、さらには医師不足により診療収入が低下し、経営状況が悪化しました。平成17年度は14億円の単年度赤字でありました。その後、平成18年から経営改革を取り組み、平成21年度から黒字に転換。平成24年度には、1億円ほどの黒字となりました。
- ・ 平成12年度には32億円の現金預金がありました。その後、減り続け、平成19年度には約13億円にまで減っていました。経営改革後、平成24年度には36億円にまで回復しています。

### 改革プランの進捗状況

- ・ 地域における医療連携の推進として、開業医との機能の分担・連携の強化

に取り組み、急性期病院として紹介率・逆紹介率の向上に努めており、徐々に伸びています。

- ・ 看護師の確保対策として、修学資金の貸付を行っており、3年間で30人程度の増員を実現しました。
- ・ 経費削減・抑制対策として、医薬品の経費削減・抑制の観点では、ジェネリック医薬品の利用促進を図っております。
- ・ 医療の質と病院機能の向上のため、第三者機関による外部評価として病院機能評価を10月に受審し、現在、結果待ちの状況です。
- ・ 患者サービスの向上として、平成24年度にコンビニエンスストアを設置しています。
- ・ 地域に開かれた病院づくりとして、平成19年度より病院協議会を開催しており、他にも出前講座の開催、院外情報誌の七尾市・中能登町への全戸配布、ケーブルテレビでの病院番組の放映、病院フェスタを実施しています。
- ・ 経営指標に係る数値目標の達成状況について、経常収支比率は目標値101.2%に対し実績値101.4%で目標達成、医業収支比率は目標96.6%に対し実績96.5%と目標に届かず、職員給与費対医業収益比率は目標58.4%に対し実績57.0%で目標達成となっております。

### (3) 精神センター増改築工事について

＜菟谷管理課参事＞

- ・ うつ病や統合失調症などの精神疾患の患者数が増え、糖尿病やがんの患者数を大幅に上回り、厚生労働省は精神疾患を5大疾病の1つとして重点政策を行っております。また、精神科疾病は入院から外来重視へと移行しており、当院でも精神科外来患者数が増加傾向にあり、これに対応するため増改築工事を行っております。手狭になったデイケアルーム・作業療法室を増築し、跡地に待合ロビー等の拡張工事を行っております。
- ・ 工期は平成25年6月20日から平成26年3月20日までです。
- ・ 増築工事は鉄骨造りの2階建て。1階はデイケアルーム等、2階は作業療法室、スタッフルーム、面談室等、延べ床面積は600.70㎡です。平成25年9月3日より工事を開始、12月20日に引き渡し、12月24日から運用を開始しています。
- ・ 精神センター1階の改築工事については、平成26年1月10日より開始し、3月20日に完成予定です。外来待合ロビーに33席、面談室も3部屋に増える予定です。

### 精神科デイケア・ショートケアの紹介

＜今井作業療法士＞

- ・ デイケア・ショートケアでは、患者さまが充実した社会生活をおくれるために、様々な治療プログラムを行っております。
- ・ 病気がさらに悪くならないように、人とうまく付き合いたい、働きたいが自信がない、生活リズムを安定させたいといった悩みを持つ患者さまが利用しています。
- ・ 治療プログラムは、グループディスカッション、料理教室、集団療法や作業療法などがあります。プログラムを継続することで、地域で過ごしやすくなったり、仕事への準備ができます。

### 精神科作業療法の紹介

＜山崎作業療法士＞

- ・ 精神疾患のリハビリの一環として行われています。
- ・ 集中力や根気を回復させる、病的な思考とならないよう気分転換を図るなど、社会復帰のための取組みを行っております。
- ・ 利用者数は、1日平均16～17人。活動内容によっては20人以上。平成13年に作業療法を開始した時に比べ3倍以上の人数となっております。

＜澤井委員＞

病院に行ったらうつが治るということを広めて、また、充実した医療に努めていただきたいと思います。

<松木会長>

今、うつ病患者は増えているんですか。

<山崎作業療法士>

→ ここ10年増えてきております。うつ病が複雑化してきて、うつ病と認定される方が増えてきています。絶対数的にも増えている印象があります。

<池野看護部長>

→ 精神センターの病棟では、患者さまに対して、昼夜問わず電話相談を受け付けています。当番を決めて、看護師等が対応しております。

<和田委員>

一般市民の協力・ボランティアは考えていますか。

<今井作業療法士>

→ 精神科デイケアでは、メンタルヘルスボランティアの方に入っていていただきます。一般の住民の方が入ってもらうことにより、精神科の理解も広がり、精神科患者さまの地域への移行の刺激になります。

<水野委員>

デイケアとデイサービスの違いはなんですか。

<今井作業療法士>

→ 精神科のデイケアと、高齢者のデイケアとデイサービスがあります。精神科デイケアは医療機関が行っております。高齢者のデイケアは医療機関等が行っており、作業療法士や理学療法士などリハビリの要素が含まれます。高齢者のデイサービスにはリハビリの要素は含まれず、介護職が働いていたり、医師が診察を行ったりするものです。

<水野委員>

能登病院は公立なので、デイサービスをできないのですか。

<川口病院事業管理者>

→ 公立だからできないわけではありません。急性期入院医療に特化した病院として、当院は建てられました。地域包括ケアを行うために、急性期病院のほか、最後の看取りができる特別養護老人ホームや慢性期病院を持っている自治体はありますが、当院には、慢性期病院等はありません。慢性期病院を設置するためには事業費や土地が必要となり、当院は、まだそこまで取り掛かっていないのが現状です。

<和田委員>

松原病院ではランチを出しています。資料を見るとお昼が抜けていますが。

<今井作業療法士>

→ デイケアでは、1日おられる方には昼食を提供しています。

<澤井委員>

この人はもう薬が切れる頃かなとか、分かっておられるのですか？

<池野看護部長>

→ 薬を続けているかなど、一般科以上に、精神科は訪問看護を活発に行っております。長期入院患者さまも地域で暮らせるような支援をするよう、国の方でも方針を出しております。一緒に外出・外泊をして地域で受け入れられるように、民生委員の方とのあいさつの練習から始め、みなさんに顔を知っていただく。そういうことから、精神科看護師は支援をしています。

<和田委員>

アパートなど個別の部屋を用意し、そこで生活して社会に復帰していくという施設はありますか。

<今井作業療法士>

→ グループホームが1棟あり、今4名の患者さまがそこで過ごしています。

#### (4) 質疑応答・意見交換

##### <鳥居委員>

近い将来、県内にもドクターヘリの可能性が高くなりつつあります。能登地区の中核医療機関として、活用する整備は考えていますか。

##### <川口病院事業管理者>

→ 精神センターの裏にヘリポートがあります。ヘリを使った訓練や、実際に県の防災ヘリで患者さまが運ばれてきたこともあります。ドクターヘリの整備が現実的な話になれば、当院も参加すると思います。

##### <澤井委員>

医療機器は高いと思いますが、欲しい医療機器がある場合、どこに要望しているんですか。

##### <川口病院事業管理者>

→ 当院では、毎年、予算を作成します。その時に各部門ごとにヒアリングをして医療機器の整備をしています。去年、今後5年間の医療機器整備計画を作成しました。今年度は大物としまして、3月に放射線治療機器が整備されます。医療機器の整備につきましては、病院経営をみながら調整しています。

##### <澤井委員>

良い機器を備えて、良い治療を目指していただきたい。儲けるだけでなく還元も大事かなと思います。

##### <和田委員>

本日、午前中、Dブロックでコードブルーが起こった時、隣の人が「大丈夫ですか？」と声をかけていたのに、すぐにスタッフの方が見に来なかった。日々の受付の中で大変なことがあるとは思いますが、前の人が「大丈夫？」と声をかけていたら、立ち上がって見に来るなどの、配慮が必要だと思いました。

コードブルーの放送が、「デュー」という発音で、看護師さんが間違ってAブロックに行かれていました。急性期の入院医療を目指しているのであれば、些細なことが大事になってくるのではないかと思います。

ドクターの心無い一言に、ひどく傷つくことがあります。病気を治していただくことにプラスして、メンタルの部分で信頼できるドクターでいて欲しいと思います。「能登病院じゃなきゃだめね」という住民の安心・安全に関わっている病院として、ドクターであっても心無い言葉を言わないようお願いしたいです。

#### 5 その他

##### (1) 次回開催予定について

##### <寺尾経営企画課長>

来年度は7月頃を予定しています。テーマとしましては、決算の状況になると思います。また、新たな病院づくりの資料については、ご一読ください。

#### 6 閉会のあいさつ

##### <吉村院長>

本日は、長時間にわたりありがとうございました。皆さまのご協力をいただきまして、なんとか良好な状況を維持できています。今後、消費税の問題、診療報酬の改定など不安な要素はありますが、みんなで一致団結して頑張ろうと思います。

また、本日みなさまからいただきましたご意見を真摯に受け止め、患者さまに選ばれる病院を目指していきます。引き続き温かいご支援を承りたく思います、何卒よろしく申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

(午後4時30分閉会)